

## 1994年度日本気象学会総会議事録

**場 所:** お茶の水スクエアC館ホール (東京都千代田区神田駿河台1の6)

**日 時:** 1994年5月25日15時05分～16時25分

【総会成立の要件: 通常会員 (1994年5月24日現在3,879名) の5分の1 (776名) 以上の出席が必要であり, このうち, 委任状および書面によらない出席者は通常会員の25分の1 (156名) 以上が必要 (定款第38条).】

### 議 事:

#### 1. 開会

大西晴夫庶務担当理事から総会成立の要件を満たしたことが報告され, 総会の開会が宣言された。

#### 2. 議長選出

満場の拍手で大会委員長の山岸米二郎会員 (気象庁観測部) を議長に選出した。

#### 3. 理事長挨拶

浅井富雄理事長から概略以下のような挨拶があった。

「昨年7月に横浜で第6回IAMAP・第4回IAHS合同科学会議が開催され, 40か国と1地域から1,000名を超える科学者が参加して1,600余編の研究発表がなされるなど, 会議が成功裡に終了したことを報告します。会議の報告書が『天気』の特集号として完成し, まもなく皆様のお手元に届けられます。数年前の総会でIAMAP 科学会議の日本招致を決議して以来, 会員の皆様のご協力をいただき, 有り難うございました。この会議が皆様の今後の研究活動の発展の踏み台になることを願います。

ここ数年来, 国内外を問わず経済不況, 社会混乱の不透明な状況にあります, 気象学会は, 質・量ともに着実に発展しつづけています。会員数は年率1%の微増ですが, 学生などの若手の会員の増加によるものです。会員構成も, 圧倒的多数が気象庁職員であったかつての状況から, 大学, 地方自治体, 民間企業, 教員など, 多彩な構成になりました。いわば, 単一民族集団から多民族集団へと変貌しつつあり, 気象学会の将来の飛躍に向けて潜在力が高まりつつあります。

近年, 社会の気象に対する関心が高まっており, 気象事業や気象学研究に対する要求も高度化し, 多様化しています。気象業務については気象庁が大変

な努力をされています。気象学会は最先端の研究の一層の向上に精進することはもとより, その成果の社会への還元, 教育と普及活動にも努めねばなりません, これには支部活動が重要です。これまで夏季大学は関東, 関西, 北海道地区で行われてきましたが, 今年から中部支部でも開催されるとのことで, 大変に喜ばしいことであります。

学会が長期的展望のもとに適切・迅速に活動できるよう, 組織体制を柔軟かつ機能的なものにする必要があります。そのひとつとして, 昨年の総会で役員を選任方式の一部改定しましたが, 今総会で新しい方式で選考した役員体制案を後程提案しますので, ご審議のうえご承認をお願いします。

最後になりましたが, 本大会をご準備, お世話いただいている山岸大会委員長はじめ, 気象庁観測部, 気象大学校の関係各位に深く感謝します。」

#### 4. 1994年度日本気象学会賞授与

学会賞候補者推薦委員会(田中正之委員長)を代表して, 菊地勝弘理事が選定理由を報告。浅井理事長から受賞者に賞状ならに賞金・メダルが授与された。受賞者とその業績は以下のとおり。

高橋正明会員 (東京大学気候システム研究センター)

「数値実験による準2年周期振動の研究」

#### 5. 1994年度藤原賞授与

藤原賞候補者推薦委員会の武田喬男委員長が選定理由を報告。浅井理事長から受賞者に賞状ならびに賞金・メダルが授与された。

受賞者とその業績は以下のとおり。

栗原宜夫会員 (米国海洋大気庁地球流体力学研究所)

「数値モデルを用いた熱帯低気圧の解析及び予報についての研究」

住 明正会員 (東京大学気候システム研究センター)

「TOGA を中心とする熱帯海洋大気結合システム研究の推進」

#### 6. 1993年度事業経過報告

大西晴夫庶務担当理事から, 会員数の動向, 機関誌の刊行状況, 研究会活動への補助強化, 海洋学会との共催シンポジウム, 国際学術交流事業の現状, 委託業務の状況などに関する報告が行われた。

## 7. 1993年度会計決算報告

岩崎俊樹会計担当理事から、1993年度決算の規模はIAMAPへの補助や委託業務の関係で収入、支出とも例年になく大きくなっていること、次年度繰り越しの出た委託業務費を除くと、全体としてバランスし、これまでの累積赤字分を解消する黒字決算になったことなどの報告が行われた。

## 8. 1993年度監査報告

多田一正監事から、4月26日に行われた監査の結果、会計処理は適正に行われていると認められたことが報告された。また、OA機器の充実で会費納入状況の把握など、学会の日常業務の管理が著しく改善されたことや、気象研究ノートの発行や普及活動が活発に行われていることに対し、関係者の努力を評価したいなどの監査意見が述べられた。

引き続き、事業経過報告、会計決算報告、監査報告について議長が質疑・意見を求めたが特に意見はなく、賛成多数で原案どおり承認された。

## 9. 定款の一部改正

木田秀次総合計画担当理事から趣旨説明が行われた。昨年の総会で役員選任方法の変更に関わる定款および細則の一部改正が可決され、役員選任に推薦制度が導入されたが、その後の文部省との協議の過程で、「特定の理事と親族関係にあるものや、特別の関係にあるものが理事のなかに占める割合の制限条項」を定款に加えることになった経過が説明された。これに基づき質疑・討論に入った。

出席者から、「特定の関係」という表現は漠然としているが、これで問題はないのかとの質問があったのに対し、担当理事から、法人組織では、これと同じ文言が定款に含められるのが普通である旨の説明があり了解された。

ここで議案の採決を行うため議場を閉鎖し、出席者数等の確認を行った結果、出席会員172名、委任状等による参加696名（出席会員に委任=54、議長委任=162、書面で賛否表明=1、白紙委任=479）、合計出席数868名であり、総会成立要件を満たしていることが確認された。

採決の結果は、出席会員172名

賛成171、反対0、保留1、

出席会員への委任54名

賛成54、反対0、保留0、

書面による意志表示1名

賛成1、反対0、保留0、

議長委任および白紙委任の合計641を賛成に加えることが議長から表明された結果、賛成867、反対0、保留1となり、定款の改正に必要な出席者（委任状等を含む）の3分の2（706名）以上の賛成を得て、定款の一部改正は可決された。

## 10. 日本気象学会第28期役員選任

浅井富雄理事長から、通常会員による選挙で当選した理事候補22名と監事候補2名のうち、3名の理事候補者から異動を理由にした辞退があったことの報告があり、それを除く理事候補19名、監事候補2名の役員への選任を満場の拍手で承認。

つづいて、当選理事候補者から理事長に対して推薦のあった8名の紹介が理事長からあり、質問がないことを確認のうえ、満場の拍手で理事に選任することを承認した。

## 11. 1994年度事業計画案審議

大西晴夫庶務担当理事から、総会資料に基づいて提案が行われた。秋季大会に合わせて開催する「熱帯・東アジア域の豪雨」への国外からの参加者4名に対し、国際学術交流基金から補助を行なうことなどが提案され、また、関東、関西、北海道地区に加えて、中部支部が今年度から夏季大学を開催する予定であることなどが報告された。

## 12. 1994年度予算案審議

岩崎俊樹会計担当理事から、総会資料に基づいて提案が行われた。『天気』の特別号としてIAMAP特集を、また、『気象集誌』ではTOGA/COAREの特別号を発刊することなどが提案された。郵便料金値上げの影響が心配されたが、『気象集誌』の印刷経費が業者を変更したために昨年度より低く押さえられる見通しであり、収支均衡した予算であるとの説明があった。

引き続き、事業計画案および予算案について質疑・討論が行われた。

「秋季大会時のシンポジウムは国際的なものになるようだが、英語が分からない人のために同時通訳などを考えているか」との質問があり、九州支部から、「予算が厳しく同時通訳までは難しい。日本語と英語の予稿集を配布し、講演も図を見れば内容が分かるように工夫してもらおう。英語の分かる人は近くの人に説明していただきたい。」などの準備状況についての説明があった。

事業計画案、予算案の採決の結果、両案とも原案どおり満場の拍手で承認された。

## 13. 議長解任

総会の議事運営に関し、議長から出席者の協力に感謝する挨拶があり、議長は解任された。

#### 14. 閉会

大西晴夫庶務担当理事が、総会を閉会する宣言を行った。

総会議長 山 岸 米二郎<sup>㊤</sup>  
出席者代表 椎 野 純 一<sup>㊤</sup>  
出席者代表 岩 淵 敏 明<sup>㊤</sup>

## 国際学術研究集会への出席補助金受領候補者の募集のお知らせ

— 国際学術交流委員会 —

国際学術交流事業（天気32巻5号参照）の一環として、国際学術研究集会への出席の旅費もしくは滞在費の補助を下記により行ないますので、希望者は期日までに応募願います。（天気40巻12号884ページ関連）

### 記

#### 1. 対象の集会

1994年12月1日～1995年5月31日の期間外国で開かれる国際学術研究集会

#### 2. 応募資格

日本気象学会会員で国際学術研究集会に出席し論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの。

#### 3. 募集人員

若干名

#### 4. 補助金額

開催地域を考慮し最高15万円程度

#### 5. 応募手続

所定の申請書類（日本気象学会事務局備付）を期日までに国際学術交流委員会（〒100 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内日本気象学会気付）に提出する。大学院生は指導教官の推薦状を併せて提出する。

期日：1994年8月31日

#### 6. 補助金受領者の選考・義務

当該集会終了後30日以内に集会出席の概要を「天気」に掲載可能な形式で1ページ（2000字）程度にまとめ、報告書として委員会に提出する。